

～フィンテック【金融×IT】で加速する経営のイノベーション～
平成28年度 第2回 札幌市ITイノベーション研究会 実施報告(抄)

開催日：2016年12月13日(火) 14:00～16:30

場所：札幌市産業振興センター 産業振興棟 2階 セミナールームA

主催：一般財団法人さっぽろ産業振興財団

共催：札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム

後援：札幌市、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、北海道ITコーディネータ協議会

参加者：44社68名

プログラムと内容概略(以下、敬称略)

1 主催者挨拶



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部長
和田 康広

2 講演「フィンテックの最新動向について」



札幌学院大学 客員教授 / 日本イノベーション融合学会 北海道支部長
/ 札幌市ITイノベーション研究会 世話人 赤羽 幸雄

○フィンテックに関する政府・行政の動向

・政党：議員連盟、IT戦略特命委員会、第四次成長戦略／金融庁：金融審議会、有識者会議／経済産業省：研究会・検討会合、割賦販売法改正、おもてなしプラットフォーム実証実験／日銀：FinTech センター

○日銀、FinTech センター設立

・金融以外の企業との連携が必要。金融がもともと”情報”と密接に関わっていることを踏まえれば、情報技術の発達は金融サービスのフロンティア(境界)を大きく広げ得るもの。

○金融庁、フィンテック法改正検討へ

・ビジネスしやすい環境の整備、利用者の保護、フィンテックの広がりを後押しすべく、銀行法などの関連法を見直す動き

→大手金融機関も、金融×IT に向けた開発を加速(三菱 UFJ、三井住友、みずほ、セブン、横浜、静岡、第一生命、住友生命、等)

○道内銀行の動向

・FinTech ベンチャーとの連携／FinTech への参入が拡大傾向へ

○中小企業の経営高度化・生産性向上・資金調達円滑化に向けて

・(現状)中小企業等における経理業務のソフト・システムの普及は進んでいない

→給与、経理業務のパッケージソフトや受発注管理などのソフトを導入している中小企業は半数以下

→財務・会計領域においてクラウドサービスを活用している中小企業は約 2%

・(予想)FinTech の活用により、中小企業の経営は高度化が見込まれる

→経營業務の圧縮: バックオフィス改革につながる IT ツールの導入(会計業務等のクラウド(自動化)、決裁インフラの高度化(金融 EDI)により、売掛金の消込など業務負担が軽減

→IT ツールの導入が自社の財務状況をリアルタイムに管理できる→資金効率の向上→資金繰りの改善へ

3 講演「フィンテックビジネスの実践」



株式会社マネーフォワード 取締役 兼 研究所長 瀧 俊雄

○IT 活用と中小企業をとりまく事業環境

・日本再興戦略 2016

データ利活用プロジェクトの推進、中堅中小企業への導入支援→1 万社を IT 化支援

・中小企業における人材不足

従業員の不足感が増加傾向。生産年齢人口の減少傾向(2020 年までに 250 万人減少)

・IT 投資と業績の相関性

・人材不足の問題をクリアし、テクノロジー活用から生産性向上に導くために、安価で簡単に導入できるテクノロジーの活用とテクノロジーを活用できる外部業者による中小企業へのサポートがポイントになる。

○MF クラウドシリーズが目指すもの

・わずらわしい会計作業を自動化、企業の生産性を大幅向上へ(約 5 分の 1。年間 40 万円程度のコスト削減の可能性)

・各種金融機関関連サービスとのデータ連携、自動学習、(従来オフィスで使われている環境を意識し)エクセルからのインポート、レポート機能により経営状況の即時把握が可能に

・その他、請求書、給与・マイナンバーなどの付帯サービスあり。月額数千円からの利用で。

・

○地方創生

・全国 6 か所の拠点をベースに金融機関との資本業務提携

・地方自治体における、中小企業の生産性向上、創業誘致による地域の雇用創出を目指す(e.x.北九州市)。

○オープンなエコシステムの構築

- ・経済構造改革でも、IT を活用し中小企業を支援する事業者の活躍が期待されている。
- ・オープンなシステムの構築は、ユーザーの課題解決、中小企業の経営改善を促進する。

→一般社団法人 BusinessIT 推進協会(テクノロジーの力で中小企業の経営をサポートするスペシャリスト)

- ・IT 企業、クラウドサービス企業が共に手を組み、一丸となって日本の底力の引き上げを

4 講演 「札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアムについて」



札幌市経済観光局 国際経済戦略室 IT・クリエイティブ産業担当課長 村椿 浩基

○札幌市 IT 産業の現状と課題

- ・現状 事業所数：主要都市の中で 6 番目(622 社)／従業員数：同 7 番目(15,764 人)

→札幌市の IT 産業は、全国の主要都市の中でも、有数の集積地であること。

・課題としては「1. 技術の高度化 2. 市場・販路の拡大 3. 人材の確保・育成」と捉え、継続した成長のためには IT 技術を活用し、新たな市場の獲得を行うことが必要。

○札幌の IT 産業は「受託ソフトウェア開発」の割合が、5 割程度と比較的高い割合を示しており、次が、情報処理サービス業、ソフトウェアプロダクツ事業と続く。

○従業員一人当たりの売上額が、

全国主要都市の中でも 16 番目。他の主要都市と比較すると、札幌 IT 産業の過半を占める事業である、「受託ソフトウェア開発」の受託単価の低さが推測される。

○札幌市 IT 産業の課題「市場・販路の拡大」→他産業市場での販路拡大、市場創造を図る

○札幌市産業振興ビジョン→経済環境に変化に伴い、適宜改訂。これまでの「食、観光、環境、健康福祉」の重点 4 分野+「IT・クリエイティブ産業」を新たな柱に。

・IT 分野の振興：「日本再興戦略 2016」において、「IoT、ビッグデータ、人工知能」といった先端技術を活用した「第 4 次産業革命」。産業構造、就業構造を一変させる可能性

⇒成長戦略の最重要課題に位置づけている。

・札幌には、大学等における先進的研究成果の蓄積と、全国でも有数の IT 産業の集積という 2 つの強み

○札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム (今年 8 月に設立)

・地域の様々な企業や関係機関が参加するオープンな組織で、このコンソーシアムを基盤にネットワークが築かれ、大学などが持つ技術シーズと企業の事業アイデアが結びつき、先端技術を生かした新しい事業が生まれていく場。

・広くコンソーシアム会員を募集 (コンソーシアムの目的や事業に賛同いただける方<法人会員/有識者会員/特別会員>)。会費は無料。

5 講演「北洋銀行のフィンテック戦略について」



株式会社北洋銀行 チャンネル開発部 フィンテック推進室 室長 佐々木 勉

○Fintech：IT企業が金融分野においてサービスを展開すること。背景としては、2008年のリーマンショックで、多くの金融人材が、シリコンバレーに流失。スマートフォンに代表されるモバイル端末を活用した金融サービスを提供し始めたのが発端。Fintech企業との関係は、「競争」から「協創」（日本では協創が中心）。

○海外動向

・アメリカ<投資額第1位（96億1800万ドル）>

口座維持手数料・クレジットカード等キャッシュレス化の浸透など金融慣行により、既存金融機関への不満がFintechの重要な動機。

・イギリス<投資額第2位（6億1000万ドル）>

“Global Fintech Capital”を目指し、Fintech企業の投資、招致に積極的。

・中国<投資額第3位（3億2600万ドル）>

巨大eコマースによるFintech参入（アリペイ（Alipay）、テンペイ（Tenpay））、「インターネット+」が牽引

・スウェーデン<投資額第4位（2億6000万ドル）>

FinTechにより、世界有数のキャッシュレス先進国に（1947年導入のマイナンバー。eIDカード（Bank ID）で、一般行政サービスや民間サービスが利用可能）。

・日本<投資額第10位（5400万ドル）>

○日本におけるFintech

・Fintech企業は200社弱

・課題：クレジットカードの利用率が低い。既存の金融機関に対する信頼度・サービスの満足度が高い。銀行法業務範囲規制とセキュリティに対する懸念（セキュリティ最優先）。

・経産省：フィンテック研究会、金融庁：Fintechサポートデスクの設置と銀行法改正（出資規制緩和、仮想通貨への対応、等）

○銀行業務とフィンテックの関係

・インターネットバンキング：（今）銀行が提供しているアプリを利用者が使用→（これから）企業が利用者やユーザのニーズに応じた送金や更にはポイントとの連携も可能な仕組み（1人が決裁してポイントをワリカンする）が銀行と他の事業と連携していくなど、様々なアプリが生まれていく。

・AIを活用した融資審査の単純化（金利予測など、準定常的な業務など）など。

・地域限定通貨やプレミアム通貨といったアイデア。地域の特産品や文化などの融合で、地域通貨が強くなる（ポテンシャルを持つ）ことも考えられる。

○北洋銀行における取組

・当行独自の取組（協業、企業・大学などとの連携）とTSUBASA連携（モバイル、新サービス、新技術、ビッグデータ、コンテストなど）の2軸で

・銀行が持つ情報を提供することで、他業種とのコラボによる新たなサービスを生むだけでなく、ビジネスに付加価値をつけられる可能性を秘めている。⇒イノベーションが期待できる。

- ・銀行が預金者の情報（個人情報ではなく属性）を提供したとしたら、民間企業の皆さんは何をされますか（どんな API が思いつきますか）。想像&創造により商流が大きく変わる可能性がある。
- ・様々な可能性を求め、様々な業界と広く意見交換をしながら、共にアイデアを考えていきたい。

6 その他

- ・今年度第3回の研究会は3月実施予定（IoT）、第6回札幌イノベーションセミナー（2月21日・食）

【研究会の様様】



時節柄、お忙しいところ多数の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

次回（3月）の研究会にも是非ご参加いただきたく、また、2月の札幌イノベーションセミナーにおいては、食に関係する皆様に幅広いお声掛けをいただきつつ、共にご参加いただきますようお願い申し上げます。

さらに、本研究会のために貴重なお話をいただきました、各講演者の皆様に心より感謝申し上げます。本会では、フィンテックに関する新たなサービスが生まれる可能性や、フィンテックによって生まれるビジネスの付加価値の可能性など、様々な情報を共有できたと思います。すぐそこにある大きな可能性と皆様のビジネスとの融合に期待しております。

以上